

「緑の政治を創る」—活動の足あとこれから

2期目活動の原点は3.11大震災—ひとりひとりの声に寄り添う

2011年の「3・11」東日本大震災の翌日、中山は仲間達とともに救援物資を積んで直ちに現地へ。実状を見て回るとともに、災害時だけでなく平時でも「必要な人に必要なサービスや物を届ける」ための政治が重要であること、そして原発の危険性だけでなく日本社会のありようが問われていることを実感、これが2期目の原点となり、いのちと暮らしに寄り添う政治を目指して活動を開始しました。

中山は、地域経済や雇用、暮らしの課題に向き合い、皆様の声を聞きながら、今後も議会で積極的に提案・議論を重ね、駆けまわっていきます。



▲ 2011年「3.11」東日本大震災発生翌日、福島県いわき市へ

行動と提案で議会と市政を動かす

中山は、議会で既存の会派には属していませんが、自由な立場で活発な活動と提案を重ねてきました。例えば、柏崎刈羽原発再稼働問題、被災者支援、新潟市の財政基盤強化などの意見書が、中山の提案や調整で可決につながっています。

また、政務調査費の成果報告の積極公開も進め、1期目途中からいち早く「費用弁償」(※)を独自に凍結、この凍結分を東日本大震災支援のため寄付。

市内で頻発する災害では現場を駆け回り、市民の皆様の声を聞きながら迅速に課題を把握。専門家のアドバイスも受け、信濃川堤防に穴を開けない簡易型ポンプの設置の実現にも貢献しました。

さらに、中山が提案した「環境配慮型電力入札」は縦割り行政の枠を越え、複数の施設と市内小中学校全体に拡大、4年間換算で1億円以上の経費と1万トン以上のCO₂削減を実現しています。

その他、介護、除雪、地域経済など様々な課題で質疑や提案を重ね、成果を得ています。

※「費用弁償」は報酬とは別に支払われる経費。新潟市議会は2011年によく制度を廃止。



▲ 中山の調査や主張は、国内外の新聞等で報じられる

「緑の政治」の実現へ

いのちや暮らしを重んじ、質素でも心ゆたかに暮らすことのできる循環型の地域経済。そして、原発のない、エコロジカルで持続可能な、公正・平等で多様性豊かな平和な社会へ。

「緑の政治」をめざす中山は、95年に地域政党「緑・にいがた」を結成し、世界各国の「緑の党」とも連携(※)、既得権益とは無縁の政治活動を展開してきました。

中山は、この新潟で、地域のくらしといのちを大切にする「緑の政治」を実現・発信しています!

※中山は現在、2012年に結成された「緑の党グリーンズジャパン」の共同代表も務める。

同グループには全国約60名の自治体議員が参加。「クオータ制」を導入し、共同代表はじめ役員の半数を女性が占める。



私も応援します！

秋葉忠利（前広島市長）

阿部とも子（小児科医・衆議院議員）

近藤正道（弁護士・前参議院議員）

会津もと子（千葉県成田市議）

青木 弘（西区木場）

阿部清利（元国労）

安沢悦子（寺尾西）

石川信子（松海が丘）

一箭武夫（西区木場）

井上桐子（友人）

井上経久（市民映画館シネウインド代表）

今村達弥（ささえ愛よろずクリニック院長）

大倉 宏（美術評論家）

大高正嗣（季節芸術家）

大西洋司（医師）

岡崎まり子（フランス語講師）

大野 久（元新潟市議）

岡田朋子（歯科医）

小川弘幸（文化現場）

亀貝太治（カメガイアートデザイン）

亀倉静子（五十嵐西・主婦）

唐澤直秀（居酒屋「たらふくうなり」）

川上伸一（港すじ）

川瀬知之（大学准教授・歯科医）

神部 昭（元新潟市職員）

小林 茂（ドキュメンタリー映画監督）

小林富貴子（教育研修コーチング協会理事長）

齋藤文一（新潟大学名誉教授）

佐々木寛（日本平和学会会長）

佐藤明夫（新大名誉教授）

佐藤 勇（小児科医）

西方純夫（友人）

重長 恒（元タクシー運転手）

神保桂子（友人・介護支援専門員）

鈴木静子（友人）

鈴木利枝（歯科医）

高橋千洋（友人）

濱沢英栄（元高校教員）

田口 純（医師・ときわ診療所）

武田新吾・啓（友人）

武田貞彦（ささえあいコミュニティ生活協同組合新潟）

武本和幸（刈羽村）

田辺慶直（高校同期・歯科医）

田巻明恒（演劇研究家）

多和田李雄（歯科医）

塚原稔男（高校同期・会社員）

柘倉幸一（元新潟市議、団体役員）

戸松茂雄（高校同期）

中村哲也（新大名誉教授）

中山 徹（医師）

中山 望（会社員）

新津厚子（大学生）

西 克郎（歯科医）

弦巻英市（元・八百屋虹屋）

西山五郎（居酒屋五郎）

野村彰・裕子（寺尾上）

橋本桂子（友人・上越市在住）

長谷川羽衣子（緑の党グリーンズジャパン共同代表）

長谷川均（元生協役員）

濱田宏幸（鍼灸師）

深町博臣（歯科医）

藤橋夏子（友人）

保科亮太（新潟の未来をみんなで考える会）

堀井 修（小千谷の百姓）

本間ケイ（洋画家）

三澤晴一（西区鳥原）

村井 勇（カメラマン）

柳 弘紀（子ども劇場おやこ劇場新潟県センター代表）

山田達也（元新潟市議）

山田洋子（元新潟市職員）

山本一哲（元新潟県職員）

横山由美子（市民運動団体代表）

依岡正宏（会社代表・友人）

若槻秀夫（医師）

(2014年12月時点。第二版に向けさらに募集中)